

1. はじめに

この度はじめて PAL ASCO2015 プログラムにて ASCO2015 に参加させていただきました。

これまで、日本癌治療学会の PAL プログラムをはじめとした国内の学会にはいくつか患者向けプログラムがあるのは知っており、参加した経験もありました。昨年秋、ある学会で桜井なおみさんが講演された ASCO に参加された時のお話を拝聴し、海外の学会にも患者が参加できるのだと知りましたが、数ヶ月前までは ASCO に参加できるチャンスが自分に巡ってくるとは思っていませんでした。

まだ治療中の身ですが、治療が終わるのを待って居たらこのようなチャンスが今後もあるかわからないと思い、学生時代に身につけた英語力を少しでも病気になった経験と共に活かすことが出来ればと応募しました。

2. 応募～派遣決定通知をいただくまで

プログラムを知ってから応募するまでなかなか重い腰が上がりませんでした。募集期限ぎりぎりまで英文履歴書と英文応募理由書を書き上げました。

まだ一患者の域を出ず、患者団体活動をしていない身としては「誰かのため」ではなく、「自分のため」に学会に参加したいという思いが強く応募理由書を書き上げるのには苦労しました。

応募後は、選考に通れば良いなと思ったり、やっぱり自分にはまだムリだから応募しなければ良かったかなと思ったり複雑な心境でした。

そんな中、2月末に選考に通って ASCO2015 に参加できるという通知をいただくことができました。

3. 出発まで

選考が通ってからは怒濤の日々でした。事務局からは助成金の振り込み日と「航空券、宿泊、参加登録はご自身で行って下さい」の連絡のみで、他に誰が参加されるのか、そもそも誰か参加されるのかもわからない状態でした。ただ、個人旅行の手配や仕事柄学会の参加登録など全く勝手がわからないわけでは無かったので、それらも含めてできる人材だと認められて選考に通ることができたのだと勝手に前向きにとらえて手続きを進めました。

さすが、世界各国から3万人とも言われる人々が ASCO のためにシカゴにやってくるとあって、3月の時点で急いで航空券を予約しないとどんどん埋まって言ってしまうかどんどん価格が上がってしまう状態でしたし、宿も ASCO 価格というものがあるそうで、ASCO 開催期間中は宿泊費が通常の何倍にも跳ね上がっていました。

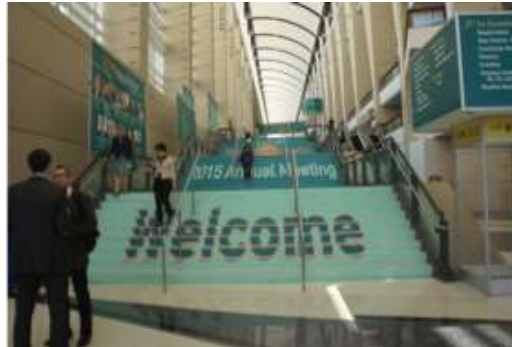
ASCO の参加登録は結構複雑で色々なオプションを選択しなければならず少し苦労しました。案の定、入力ミスをおかして、事前に届くはずのネームバッジはシカゴから戻った2週間後に手元に届きました。

結局、定員4名のうち他に参加される方すべての名前がわかったのは出発1～2週間前で、個人で行動できることが求められているのだと改めて感じました。

4. ASCO2015に参加

会期前日の夕方にシカゴ入りし、翌日からの学会参加に備えました。

会場となっているマコーミックプレイスはとても広いので会場と会場の移動にとても時間が掛かることや、会場内がどこも凍えるように寒いと先輩方から伺っていたので、カイロや防寒グッズを用意し、歩きやすい靴で参加しました。



会場入りしてみると本当に広くて、正面入口から入って受付をするまでにも 10 分以上歩きました。幸い昨年も参加されている先輩が案内して下さったのでスムーズに受付をすることはできました。その後他の参加者の方と待ち合わせのペイシエント・アドボケイト・ラウンジへ行き、アドバイスや、これは絶対に聞いた方が良いというセッションを教えていただきました。

日本からこのプログラムと一緒に参加していると言っても他の参加者の方々とは現地での行動は関心のある分野も違うため各自の自由に任されており、説明を受けた後はセッション参加のため解散しました。



5. セッションへの参加

出国前にプログラムと格闘し、事前に参加したいセッションを決めて参加しました。自分の興味対象が「乳がん」、「遺伝」、「サバイバーシップ」などで、それらを中心に重なっているところは、一番興味関心のある「遺伝」のセッションを選んで参加しました。

PC やスマートフォンで抄録を見たり、自分の参加したいセッションを選んでスケジュールを組んだりできるようなアプリもあるのですがとても便利ですが、出発直前まで準備不足でインターネット環境に不安があったため、自分なりにタイムスケジュールを作ったものをプリントアウトして持参しました。

	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30
5月28日 水	飛行機																	
5月29日 金											13:00	15:15				16:30	17:00	
5月30日 土	8:30	9:30																
5月31日 日		9:45	11:00															
6月1日 月		9:45	11:15							12:30	14:00			16:00	18:30			
6月2日 火		9:45	11:00															
6月3日 水	飛行機																	
6月4日 木	飛行機																	

6. ペイシエント・アドボケイト・ラウンジ

ペイシエント・アドボケイト・ラウンジはペイシエント・アドボケイトとして参加している人が利用できるラウンジであり、そこでは PC で調べ物ができたり、世界各国、全米各地から参加している患者団体の人と交流することができたり、資料の収集をすることもできました。患者向けセッションもそこで開かれていました。

また、朝食、昼食、軽食、飲み物などが用意されているのでセッションの始まる前や合間に休憩することもできました。



ラウンジで他の患者団体の方と交流ができるのもここならではの魅力だと先輩よりアドバイスをいただいておりましたが、なかなかこちらから行動に移すことができずにいました。しかし、以前日本のある学術集会でお目に掛かったことのある米国の若年性がん患者支援団体 YSC (Young Survival Coalition) の副代表 Stacy さんや、米国の遺伝性乳がん卵巣がん症候群 (HBOC) 患者団体 FORCE (Facing Our Risk of Cancer Empowered) の代表 Sue さんと再会することができ、それをきっかけに多くはありませんがブラジルの卵巣がんの患者団体の方などと交流することができました。



7. 患者団体のブース

ASCO がスポンサーとなって、患者団体のためのブースが製薬企業やその様々な団体のブースがあるのと同じ展示会場に（日本癌治療学会のブースもここに）ありました。28 もの患者団体がブースを設けていました。そこでは、資料を集めたり、患者団体の方からお話を聞いたり、ラウンジとはまた違った形の交流をすることができました。



おわりに

今回はじめて ASCO に参加させていただきましたが、今後の課題がたくさん見つかりました。今模索中の今後どのような活動をして行きたいか、ということを改めて強く考えたと同時にヒントもたくさん得ることができました。

自分の病気のことにはわかっているようでも、自分と違うタイプや自分が経験してきていない治療法、日本での現状など最低限の知識をもっと身につけておかなければ「良い経験ができた」だけで終わってしまうのだと感じました。また、日常会話ができても医療用英語の知識も必要だと痛感しました。

今回の経験で不足を感じたこと、気づきを得たことを元に今後の行動につなげていきます。

